

令和5年第2回三笠市議会定例会

令和5年6月22日（第3日目）

○議事次第（第3号）

- 1 開議宣告
- 2 議 事
- 3 散会宣告

○議事日程

- 日程第 1 議案第32号及び議案第33号について（大綱質問）
日程第 2 議案第28号から議案第31号まで及び議案第34号について

○出席議員（10名）

議 長	9番	武 田 悌 一 氏	副議長	5番	折 笠 弘 忠 氏
	1番	青 木 康 博 氏		2番	池 田 真 志 氏
	3番	須 河 恵 介 氏		4番	浅 尾 三 吉 氏
	6番	畠 山 幸 氏		7番	澤 田 益 治 氏
	8番	谷 内 純 哉 氏		10番	谷 津 邦 夫 氏

○欠席議員（0名）

○説明員

市 長	西城賢策氏	副 市 長	右 田 敏 氏
総務福祉部長兼 総務福祉部参事兼 危機管理室長事務取扱	小 田 弘 幸 氏	総 務 課 長	渡 辺 俊 文 氏
デジタル推進課長	藤 井 陽 一 氏	市民生活課長	砂 川 了 一 氏
企画財政部長	三 好 智 幸 氏	企画調整課長	萬 年 剛 至 氏
税務財政課長	坂 保 徳 氏	産業政策推進部長	中 原 保 氏
農 林 課 長	豊 口 哲 也 氏	建 設 部 長	松 本 裕 樹 氏
教 育 長	高 森 裕 司 氏	教 育 次 長 兼 学校教育課長兼 高校生レストラン統括室長	阿 部 文 靖 氏
社会教育課長兼図書館長	若 山 勇 治 氏	病院事務局長	高 田 進 氏
消 防 長	田 川 善 幸 氏	消防署長兼総務予防課長	太 田 幸 司 氏

○出席事務局職員

議会事務局長	柳 谷 忍 氏	議会係長	青 山 初 美 氏
--------	---------	------	-----------

◎議長（武田悌一氏） 開会前ですが、報道機関から撮影の申出がありましたので、許可しております。

また、議場内が暑いと感じる方は、早めに上着を脱ぐなど、体調管理のほうを各自でよろしくお願ひしたいと思います。

開議 午前10時00分

◎開 議 宣 告

◎議長（武田悌一氏） ただいまから、本日の会議を開きます。

これより、議事に入ります。

◎日程第1 議案第32号及び議案第33号について（大綱質問）

◎議長（武田悌一氏） 日程の1 大綱質問を昨日に引き続き行います。

通告順に従い、8番谷内議員、登壇願います。

（8番谷内純哉氏 登壇）

◎8番（谷内純哉氏） 令和5年第2回定例会に当たり、通告順に従い、質問をさせていただきますので、御答弁のほどよろしくお願ひいたします。

このたびの地方選挙において、三笠市長には西城賢策市長が再任されました。改めておめでとうございます。これからの三笠市の将来のため、先頭に立って三笠市のかじ取りをお願ひしたいと思います。

また、市会議員については、現職7名、新人3名、新しい10名での船出となりました。三笠市をよくするという目標は、みんな同じだと思います。私は、市民の負託を受けた者として、襟を正し、責任を持って議会活動を進めていきたいと思ひます。

さて、コロナ感染症拡大から3年以上がたち、やっと2類から5類になり、コロナ禍以前のように人の動きも出てきたところでもあります。日本経済や国民の生活を脅かす状況が続いていた中、現在では各地でイベントなどが開催され、特にお祭りでのみこし渡御については、密接する中、東京の三社祭を皮切りに、道内でも現在まで10を超えるお祭りでもみこし渡御が行われております。三笠市においても、今後の各種イベントが行われ、にぎわいを見せてもらえるものと楽しみにしております。

そこで、このたびの市政執行方針の中の「人が元気で働けるまち三笠」についての農業についてであります。

イオンアグリ、イオン農場での三笠メロンの魅力を海外へと、平成27年には当時の小林前市長が三笠市特命大使として香港にメロンを販売したと思ひます。その後、三笠市特命大使としてのPRがどうなされているのか、その後、香港イオンと三笠の農家さんとの

連携もあると思いますが、今までの経緯と今後のメロンや農産物の販路拡大の手法について、また、イオン農場については、かなりの土地を有していると思いますが、メロンのほか、多くの野菜を生産されていると思いますが、現状をお聞かせください。

次に、「人が安心して暮らせるまち三笠」であります。

その中の安心・安全なまちづくりについて、昨今、地震や自然災害が多発しているように思われます。災害は忘れた頃にやってくると言われます。いつ、どこで、何が起こるか分かりません。防火啓発を推進するに当たり消防団との連携が大事と思いますが、現在、消防団は5部団から2部団になりました。従来と変わらぬ防火啓発活動がなされているのか、まずはお聞きいたします。

次に、スポーツ・レクリエーションの運動公園についてであります。

今後の利用促進として、市民が利用しやすい環境とするための考え方についてお聞きします。

運動公園の施設全体については、老朽化が目立ち、今後の施設のあり方が課題になっていると思われます。今年はワールド・ベースボール・クラシックがあり、日本が優勝して、野球の人気もさらに出ていると思えます。このことから、小中高の子供たちの利用も見込まれます。

そこで、市営球場について毎週のように札幌や地方のチームが利用されています。気持ちよく利用していただくようにと思えますが、特に市営球場のバックスクリーンについては、塗装が剥がれ、さびが目立っている状況にあります。得点板やスコアボード、ストライク・ボール板を使って札幌シニアチームが利用しています。今後、ほかの体育施設も含め、どのような維持管理を考えているのか、お聞きいたします。

以上で、登壇での質問を終わります。よろしくお願いいたします。

◎議長（武田悌一氏） それでは、初めに農業について答弁願います。

産業政策推進部長。

◎産業政策推進部長（中原 保氏） それでは、私のほうから、農業について答弁申し上げます。

まず、御承知だとは思いますが、イオンアグリ創造株式会社の参入の経過からちょっとお話しさせていただきたいと思えますが、イオンアグリについては、市内でも特に三笠東地区の農業従事者の高齢化が進んでいるというのがあって、また、後継者がいないという喫緊の課題を解決するために三笠市への参入要請、イオンアグリがほかの地域でやっているのを聞きつけて、ぜひ北海道にという部分で、5年にわたりまして粘り強く参入について当たった結果、平成26年1月に進出が決定したと。その後、30ヘクタールの農地を借りまして、当初はキャベツだとかトマト、白菜といった地元農業者、地域の技術ある農業者の協力を得ながら作付し、そして特産品であるI.Kメロンなどを生産するというので、今年で10年目を迎えてございます。

現在の販路についてでございますが、現在はビニールハウスのメロンを中心にコマツナ

などの野菜を生産しまして、メロンについてはふるさと納税の返礼品を中心に出品してございまして、コマツナにつきましては、イオンスーパーセンター三笠店のほかに、イオン系列のスーパーなどで販売しているという状況でございます。

先ほど議員がおっしゃったように、平成27年には特命大使によりまして香港のイオンの北海道フェアに参加して三笠メロンのPR、それから観光のPRも兼ねて行いまして、翌年平成28年にも三笠メロンを輸出して販売・PRを行っている。その後、香港など海外に出向く形での販売、職員なり地域の方が行つての販売・PRは行っておりませんが、毎年継続的に輸出は行ってございまして、イオン香港各店舗で販売しているというような状況でございます。今年も、8月中旬から9月にかけて週1回ペースで、香港のイオン11店舗への輸出が計画されているというふうに聞いてございます。

また、今後の販売の関係でございますが、その手法ということで、来年3月で現在の農地の賃貸借期間が満了となります。現在、その後のあり方について農場と行政のほうで定期的に打合せを行っているところでございます。

今後の基本的な考え方につきましては、やはりメロンを主力に据えまして、今、夏メロンを多く出しているのですが、これから技術をどんどん上げながら、8月下旬以降の秋メロンの生産向上を目指して、ふるさと納税を中心にどんどん増やしていきたい。また、先般、イオンアグリ社長ともお話ししたのですが、近タイチゴも取り組んで、メロンのほかの特産品として進めていきたいという考えがあるというふうに伺っています。

このほか、今年からイオン三笠店内に市内の農産物を集めまして販売するコーナーを設けたいという意向がございます。今その販売・PRの準備を順次進めております。これはイオンアグリが中心になって、市内の農業者へ声をかけて、市内の農業者とのつながりと持ちながら活動を行いたいということでございます。

市としましても、イオン農場を含めまして、三笠メロンの生産性だとか品質の向上、それから市内の農業者と市内の農産物の販売拡大、それから市全体の農業の活性化につながるよう、農業委員会のほかに地域の農業者などとともに取り組んでいきたいというふうに考えてございます。

以上です。

◎議長（武田悌一氏） 谷内議員。

◎8番（谷内純哉氏） ありがとうございます。

当初、イオンアグリさんが来たときに、いろんな野菜を作っていたと思うのですが、今のところメロンを中心ということで、ほかの野菜は作っていないと思います。コマツナを生産しているということもありますけれども、ちょっと聞きますが、今現在は2種目、2つということで確認させていただきたいのですが、どうですか。

◎議長（武田悌一氏） 産業政策推進部長。

◎産業政策推進部長（中原 保氏） 今、そのほかにちょっと八列トウキビも作っているのですが、お祭りで販売しております。小さくはほかにも作っていたりするので

すが、現在、主はコマツナとメロンという関係で、キャベツとかは作っていたのですが、やっぱり土壌的な問題だとか水はけの問題その他、メロンに主力を置くと人手という部分もありますので、そちらにシフトしたいということで現在は今のような作付です。

◎議長（武田悌一氏） 谷内議員。

◎8番（谷内純哉氏） 私、何を言いたいかというと、メロンだけではなくて、結構土地がいっぱいあると思うのです。そこにいろんなもの、今あえて言いましたけれども、八列トウキビ、僕も嫌いではないです。ただ、八列トウキビは焼きたてがおいしいですね。2日も3日も置けないので、もう昔の人、うちの父親も大変好きですけども、イベントで買って来たらすぐ届けて食べてもらいますけれども、本当に懐かしがっております。特化して、三笠の八列トウキビがそういうふうにイオンさんをお願いしてできればいいなと思います。

また、今言いました、唐松青山町で当時、子供たちだとか市民をお願いしてキャベツを植えたという記事をちょっと思い出して見えています。平成26年9月18日の新聞ですけども、これは収穫したよという新聞でございます。今、通ると青山町のあの辺は草ぼうぼうで利用されていないのかなと思います。ぜひ、そういうところはイオンさんに、民間ですから、いろいろ事情があると思いますが、そういうところで農作物を作って、できたら、また小学生、中学生にそういう土のあるところで農作物の生育、また、そういう畑を耕すような経験をしていただけるようなものを企画していただければとイオンさんには思います。

そこで、今お話にありました来年の3月で賃貸期間が終了ということでございますけれども、所管としての考えというか、来年も賃貸を続けていただけるという、そういう見込みはどのように感じていますか。

◎議長（武田悌一氏） 産業政策推進部長。

◎産業政策推進部長（中原 保氏） 賃貸の件はちょっと農業委員会の関係もありますので、私がああだこうだという話ではないのですが、やっぱり農業、イオンアグリを活性化するという部分もありますので、今お貸ししている地域の農業者はそのまま借りてほしいという部分はありますので、その辺は今ちょうどあり方について検討しておりますので、その辺の中で整理していく必要があるかなというふうには考えています。もちろん土地を借りているからには、きれいにしていきたいというものもあります。こちらについては、イオンアグリだけではなくて、毎年、農業委員会として農地を全部見まして、使っていないところはちゃんとしてくださいよと管理者に農業委員会がしっかりやっただいしているのです、その辺を含めて、イオンアグリ、それからほかの農業者の方に順次指導をしていくというような形でございます。

以前キャベツ等、いろんなものを作付して、体験だとかあったのですが、やっぱり一経営者ですので、その辺、収支含めて今の形態でしっかりメロンで収益を上げようということでございますので、我々もそれをサポートしながら、もちろん今後やっぱりあそこの体

験農園だとか、前にメロンの収穫体験だとか、その辺もやっていたので、今後それも含めて、ぜひ観光的にやってもらえるようなことも今も話もしていますので、何とかこれを通じて、イオンアグリをきっかけに、ほかの農業者さんもいろんなことをやっていただいているので、全体的に農業が活性化するような形で進めていきたいなというふうに考えています。

◎議長（武田悌一氏） 谷内議員。

◎8番（谷内純哉氏） ありがとうございます。

農業委員会を通してということもありますけれども、農業委員会のOBの方に先日そんなこととお話をしていると、イオンさんについては、我々も相談を受ければ耕してあげたり協力はできるよという話を聞いています。農業委員会の澤田さんもここにいらっしゃいますけれども、そういった地元の農家の人とイオンさん、せっかく来ていただいたイオンさんに市としてもそういう協力をするよという気持ちがありますので、どうかその辺連携を取って、また、今言った体験農場できるようなところも造っていただければ大変うれしく思います。イオンさんについては、世界のイオンさんですので、名前がそこでまた三笠からということをしてPRできればいいなと考えております。ありがとうございます。

◎議長（武田悌一氏） 産業政策推進部長。

◎産業政策推進部長（中原 保氏） イオンさんが三笠に来ていただけたというのが、当初からやっぱりこっちに来たら地元の農業者がしっかりサポートしてくれるということで入ってきて、言葉どおり皆さん一生懸命やっただいておられます。

ただ、やっぱり地元の農業者さん含めて、あまり自分たちからああだこうだと言うのも悪いなというのがあって、今お聞きしたような形で言ってくればということだと思えます。我々もそれも聞いています。イオンにも、その辺の話はしているのですが、なかなかやっぱりイオンからもこうしてほしいだとかは、もう結構たっていますので、言いづらい部分があります。その辺は十分分かっていまして、そのことも、うちの課長のほうからもイオンアグリにしっかり伝えて、地元の方は言ってくれば協力するということを行っていますということも伝えていきますので、今後も地域と一緒にいろいろできるように我々もサポートしていきたいと思えますので、よろしくお願ひします。

◎議長（武田悌一氏） 次に、安全・安心なまちづくりについての答弁をお願いします。

消防長。

◎消防長（田川善幸氏） それでは、私のほうから、安全・安心なまちづくりについて答弁いたします。

消防団の再編に伴う変化と今までと変わらず安全を守られているかということでございますけれども、消防団の減少に伴いまして各地域での消防団員の確保が困難となる状況から、消防力の低下を防ぐために、昨年8月に消防団を5つの分団から2つの分団に再編・統合を行ったところでございます。この前の統合については、平成6年に幌内分団が三笠分団と統合して、5分団となったと。それ以来の統合となっております。

消防団の再編以降、唐松以東の分団が、現在、消防車両の運用を行っているということで、三笠から西、それと幌内を含む管轄する分団からも、消防車両の運用を同じく取り組んでみたいという積極的な声もありまして、現在、運用に向けて調整しているところでございます。

また、女性消防団員においても、消防学校の教育訓練に初めて参加するなど、団員同士で工夫をしながら積極的に防火啓発活動に取り組んでおり、団員の意識の変化を感じているところでございます。

この再編を機に消防団員全体のモチベーションの向上が見られておりますので、市民の安全は変わらず守られているものと考えております。引き続き、消防団があることで安心であると市民の方に言っていただけるように、消防団活動の充実強化に取り組んでまいりたいというふうに考えてございます。

以上でございます。

◎議長（武田悌一氏） 谷内議員。

◎8番（谷内純哉氏） ありがとうございます。

市民の皆さん、安心・安全のところで何でも数が少なくなるとちょっと心配するという事になって、あえて消防署でも各連合町内会さんにそういう案内を差し上げているのを私も分かっていますけれども、あえて今回、改めて皆さん、安全ですよ、安心して下さいということを確認したくて質問しております。

私も消防団員として一時いましたけれども、これは公費、いわゆる出動したらお金を頂くというのは、どういう位置づけなのかちょっともう一度確認させていただきたい。準公務員というのか、そういう何か言い方ありますよね。どういう立場にありますか。

◎議長（武田悌一氏） 消防長。

◎消防長（田川善幸氏） 非常勤特別職の公務員となります。

◎議長（武田悌一氏） 谷内議員。

◎8番（谷内純哉氏） 分かりました。ありがとうございます。すみません。

そういったボランティアではないのだよということをぜひ消防団員の方に周知していただいて、消防団員になったという意識を植え付けていただいて、自分たちの地域は自分で守るのだよ、その中に消防団員がいるということは、本当地域の市民の人たちはすごく安心するのですよ。例えば、僕がいたときには、自分事ですけども、谷内さんがいるのだったら、何かあったときには谷内さんに相談すればいいのですねということをお聞かされたり、それで僕もそのときには、いろんな方がそこにいますよ、消防団は各地にいますよ、ぜひ何かあったら相談してくださいということをお聞きしてききました。そういうことで職に対して粹に感じて消防団員活動をする、そればかり考えてられない、自分の仕事を持ちながら消防団の方は過ごしているわけですから、その辺はそれが全てではありませんけれども。

そこで、地域の防災組織が大変大事になってくると思います。昨日もお話がありました

けれども、やっぱり自分の身近なところ、自分は自分で守る、自分の地域は自分で守る、そういうことで、昨日消防長も言っていました共助、自助、公助。そこで、防災・危機管理アドバイザーの山村武彦さんという方が、よく災害があったらテレビに出ています。その人がこの間ラジオで言っていましたけれども、共助、自助、公助、共に助け合って自分も助ける。公助は、いわゆる行政側ですよ。でも、その人が言っていました。公助の消防なり行政が、その人たち自体が被害に遭う場合があるのですよと。そういう場合は、その方の前に近所、いわゆる自分の周りの近所が大事なのだよということを熱く語っていました。

そこで、所管は違いますけれども、町内会のあり方も大事になってくるのではないかなと思っています。その中で、この自主防災組織について前回も私、質問させていただいて、各関係者と連携を取ってやっていますよと。大変いいことだなと思っていますが、答弁いただき、現在の自主防災組織のその後の進捗状況についてお聞きしたいと思います。

◎議長（武田悌一氏） 消防長。

◎消防長（田川善幸氏） 前年度は自主防災組織を結成していない全ての町内会に対して、結成に向けた働きかけということで文書のほうで送付させていただいております。その結果、2つの町内会において、新たに自主防災組織が結成されております。令和5年5月31日時点での総組織数については、町内会ということでは94町内会といったところで、そのうち30町内会の設立となっております。

以上でございます。

◎議長（武田悌一氏） 谷内議員。

◎8番（谷内純哉氏） ありがとうございます。94町内会が今現在あるということで、そのうちの30、まだ半分にも満たないのですけれども、このことは、もう地道にこつこつやっていくことが大事だと思います。この94町内会も現在の町内会での数字であって、本来はもっとなければならぬ数字だと思うのです。そのことは深くお話ししませんけれども、高齢化によって町内会がどんどんなくなっている状況です。今回もあえて言わせてもらえれば、議員に新しくなった方、僕、美園町なのですけれども、ありがたいことに同じ美園町から2名が議員になっています。お互いに汗をかきながら、町内会づくり、また、地域の防災活動と一緒に汗を流したいなと思っています。

そこで、自主防災組織の育成促進について今後のことについて聞きたいと思います。

◎議長（武田悌一氏） 消防長。

◎消防長（田川善幸氏） 地域のコミュニティーの関わり方、身近な町内会で防災の取組を行うことで、安心していただけるものであり、町内会単位での組織の設立を推進してございます。災害に備えて、自分の命は自分で守る、自分たちの地域は自分たちで守るという自助、共助の意識が大切ではありますが、地域コミュニティーの衰退など、地域の環境に違いもございます。また、自主防災組織が結成されている場合でも、地域差が見

られますが、地域の状況を踏まえながら、自主防災のリーダーの養成をはじめ、無理なくできることから防災意識を高めていただきまして、自主防災組織を設立してほしいと考えてございます。安全・安心なまちづくりのため、今後も引き続き関係機関との連携も含めて、町内会単位での防災講習会や防災訓練を実施するなど、自主防災組織の育成促進に努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎議長（武田悌一氏） 谷内議員。

◎8番（谷内純哉氏） 前回も言いましたけれども、消防職員の皆様には本当、市内の安心・安全のために御努力されていることに敬意を表して、この質問を終わりたいと思います。

◎議長（武田悌一氏） それでは、最後に運動公園の利用についての答弁をお願いします。

教育次長。

◎教育次長（阿部文靖氏） それでは、最後に運動公園の利用と施設の維持管理について答弁いたします。

運動公園内における各スポーツ施設につきましては、建設年次の古い施設もありまして、経年的な劣化により修繕が欠かせない状況ではありますけれども、利用者が安全に施設を利用できるよう、指定管理者と連携を図りながら、維持管理に努めているところでございます。

御質問の市営球場については、昭和54年の設置後43年が経過しており、バックスクリーンについては平成22年に塗装、修繕を一度行っておりますけれども、修繕後12年が経過し、塗装が剥がれ、さびが目立っている状態に加えまして、観覧席側のベンチやフェンスについても老朽化している状態ではあります。教育委員会としても施設点検によって承知しておりますので、利用者には説明の上、事故のないよう注意を払いながら運用しているところでございます。

社会教育施設につきましては、利用者の視点以外にも景観上の問題等もあると承知しております。各スポーツ施設の維持については、当面は様々な視点から優先順位を考え、現状の施設を修繕しながら維持していくという考えでありますけれども、今後の施設のあり方につきましては、現在、内部で協議中でございますので、その方向性に結論づけができません次第お示ししたいと考えているところでございます。

以上です。

◎議長（武田悌一氏） 谷内議員。

◎8番（谷内純哉氏） ありがとうございます。ちゃんと考えていただけるということで本当にうれしい話ですけれども、順位がありますので、予算もあると思いますので、うまくお願いしたい。

野球場に、僕も野球をやっていた人間なので野球にこだわって、今、質問していました

けれども、札幌からシニアのプロを目指したいという子供たちが、にぎやかに、もう礼儀正しく、グラウンドの使い方も、僕見ていると、ちゃんと終わったらグラウンド整備して、ごみ一つなく、ごみは自分たちで持って帰って、そういうところを現実見えています。あの市営球場については、昔、2軍でありましたけれども、巨人の松井さんが来てプレーしたグラウンドです。思い出のあるグラウンドでありますし、あそこのグラウンドの前のグラウンドかもしれませんが、三笠高校が甲子園に1回行ったときの大逆転をした地でもあります。そういった意味で、ちょっとこだわって球場のことをお話しさせていただきました。子供たちがけがもなく、グラウンドはすごくいいと思います。使っているから、土の水はけもきつといいのだと思います。そういうところで気持ちよく使っていただけないかという意味で、今、質問させていただきました。どうかちょっと目を配っていただいて、野球場ばかりではないと思います。お聞きしますと雨漏りをしている建物もあるようでございます。そういったことも踏まえまして、上手に使っていただいて、楽しく使っていただけるような施設にさせていただきたいと思います。

また、運動公園の駐車場を整備した関係で、ちびっこ広場、あそこはちょっと野球ができないような感じ、子供たちのサッカーとかソフトボールもできるのでしょうかね。そんな縮小したことがありますけれども、以前のような使い方ができなくなりました。現在どのような状況となっておりますでしょうか、お聞きします。

◎議長（武田悌一氏） 教育次長。

◎教育次長（阿部文靖氏） ちびっこ広場の現状でございます。

駐車場ができる以前は野球やソフトボールなど団体での利用が多く、2面を使って使用していたこともございますけれども、昨今、特にサッカーの練習場として利用されていることが多く、年間で約200名程度の方が利用している実態でございます。

今後の有効活用についてでございますけれども、現状のサッカー等をはじめまして、家族で楽しめるバドミントンやフリスビーなど、市民の方が気軽にスポーツや運動を楽しむことができる憩いの場としての活用を中心に現在考えているところです。

以上です。

◎議長（武田悌一氏） 谷内議員。

◎8番（谷内純哉氏） 土日に限ってですけども、今言った、普通の日、平日には、本当あそこを利用して親子でキャッチボールしたり、サッカーをしたり、すごくいい景観になっているのは見て思っております。また、土日については、結構遠いところから子供たちが来て、陸上競技場で試合をやるときの練習場にもなっているのでしょうかけれども、遠くは自分事で申し訳ないですけども、自分の孫は東川に住んでいますけれども、5年生、バスに乗って三笠まで試合に来たりしています。そういうこともあって、子供の運動するときの声とか、すごく癒やされます。本当にいい環境なので、三笠に来てスポーツをしていただけているのだなと思っております。今後とも人がにぎわう場所としてぜひしっかり管理していただいて、地方から来る人たちを温かく見守るといえるか、迎えたいなど

思っております。

◎議長（武田悌一氏） いいですか。

◎8番（谷内純哉氏） 以上です。

◎議長（武田悌一氏） 以上で、谷内議員の質問を終わります。

最後に、10番谷津議員、登壇願います。

（10番谷津邦夫氏 登壇）

◎10番（谷津邦夫氏） 第2回定例会に当たりまして、通告順に従い、御質問させていただきます。

市政執行方針の市政に臨む基本姿勢についてお尋ねをいたします。

まず、市長の政治姿勢についてであります。「行政判断の基本は、本市の市益・市民益にある」と2項目掲げて市長は述べており、私も同感でございます。今回の大綱質問内容に至る経緯を若干申し上げてから、御質問をさせていただきたいと思っております。

平成30年に首相の諮問機関である地方制度調査会は、我が国の人口減少が進み、高齢化がピークを迎える2040年頃には小さな自治体の運営が行き詰まるおそれがあるとの理由で、圏域構想が唐突に公表されました。この圏域構想に対し、全国市議会議長会をはじめ地方六団体からは、制度設計に市町村間に序列を持ち込む疑念があるとか、中核的な自治体が主導権を握り、周辺自治体の独自性が失われるなどの強い反発があり、令和2年にこの構想は見送りとなりました。今後に向けては、広域的でのまちづくり自体は否定しないが、地域の自主性が損なわれぬ制度にすべきであるとの附帯意見があったところであります。

そこで、南空知4市5町の広域圏連携協定についてお伺いをいたします。

令和2年度に締結されたこの協定は、北海道が定めた広域連携加速化事業でございます。人口減少や少子化、高齢化が深刻化する中で、市町が各種行政サービスを持続的に提供していくために必要なものと考えております。今日まで取り組んできた動向や主な内容についてお聞かせをいただきたいと思います。

以上で、登壇質問を終わります。

◎議長（武田悌一氏） それでは、市長の政治姿勢について答弁を願います。

企画財政部長。

◎企画財政部長（三好智幸氏） それでは、私のほうから、南空知広域連携加速化事業の動向について答弁をさせていただきたいと思います。

谷津議員の登壇の中でも御発言ありましたが、この事業につきましては令和2年度から北海道におきまして新たに創設した事業でございます。人口減少や高齢化が深刻化し、そして人口構造等の変化に伴い生じる課題等に対応して、これまでの広域連携の取組を深化・発展させるとともに、広域連携の形成に至っていない地域を含めまして新たな取組を展開していくことで、地域全体の活性化を図ることとして、北海道として制度化したところでございます。

そこで、南空知広域連携加速化事業につきましては、令和2年9月17日に議員の皆様にも締結内容につきまして若干御説明していますが、同年の10月9日に岩見沢市、それから三笠市、夕張市、美唄市、南幌町、由仁町、長沼町、栗山町、月形町、この4市5町で「南空知圏域の形成に関する協定書」というものを締結したところでございます。

この事業の取組の実態としましては、大きく3つの取組がございまして、1つ目が地域防災体制の充実、それから2つ目が地域公共交通の維持確保と利用促進、最後に3つ目がICTインフラの研究・活用として連携を図って取り組んでいるものであります。

それぞれの連携について説明させていただきますと、まず防災につきましては、住民が安心して住み続けることができるよう、災害リスクを直視しまして、いざというときに自らの命を守り、地域で支え合うことができる「災害に強い地域づくり」を目的にしまして、職員・住民への防災教育、それから備蓄等、まさかへの備えを連携して進めていくものとしまして、4市5町の職員や自主防災組織、住民などを対象とした防災教育・防災訓練の共同実施や、共有可能な防災ツールの検討、研究、隣接市町への広域連携体制の構築などを行っており、令和4年度の実績を申し上げますと、例えば熊本地震を題材とした防災合同研修会や市、町をまたぐ災害等に備えたドーム型のテントの購入のほか、これらの事業に関連しまして、専門部会を3回ほど開催しているところでございます。

次に、地域公共交通でございます。高齢化や人口減少社会に対応した住民の移動手段の確保や、観光客などの交流人口も含めた中で移動の利便性を図ることを目的としまして、交通ネットワークの整備、公共交通の利用促進等を連携して進めるものとしまして、地域公共交通の利便性の向上に資するICTを活用した円滑化や地域公共交通の利用促進、地域公共交通の担い手の確保に係る取組を行うこととしております。令和4年度の実績としましては、地域公共交通に関わる政策、各種制度等をテーマにした外部講師を招いて、南空知公共交通セミナーの開催を始めまして、圏域の住民の皆様には公共交通を身近な存在として感じてもらえるようSNS、これはインスタグラムなのですが、これを活用してフォトコンテストなども実施したところで、これに関わる専門部会を3回ほど開催しているところでございます。

次に、ICTインフラについてですが、急激に進む人口減少に伴う労働力不足などに対応し、行政サービスの維持・確保や地域活性化を図る目的としまして、行政・産業各分野へのICTインフラの活用を連携し進めていくものとしまして、ICTインフラを活用した地域課題対応の検討や先進事例の共有、そして実験的な事業の検討、さらには自治体クラウドの購入を見据えた調査・研究などの取組を行うものとしておりまして、令和4年度の実績としては、南空知圏域における行政サービスの維持・確保や地域活性化を図るデジタル技術の活用検討を進めていくため、身近なデジタル機器であるスマートフォンに触れる機会や利用の促進により、圏域内のデジタル格差の解消などを目的としまして、おおむね60歳以上の住民を対象としましたスマートフォン講習会の開催のほか、これらに関わる専門部会を5回ほど開催しているところでございます。

以上でございます。

◎議長（武田悌一氏） 谷津議員。

◎10番（谷津邦夫氏） 今、令和4年度の一定の実施してきた中身も含めて報告ありましたけれども、これに伴って、一自治体がするだけでなく、関係する連携をした中でのいろんな取組だというふうになってくるわけですが、昨日も折笠議員も質問していましたけれども、病院だとか、交通網で、いわゆる公共交通ですよ。どうしてもこういう広域的なことを考えるときに、やはり三笠のまちを考えるときには、必ずやこういう南空知での広域連携というものは、これからは必要になるのだろうというふうに思っております。これも令和2年11月の新聞報道でも出ていましたけれども、今、部長から話あったとおり、5か年計画の南空知圏域連携ビジョンというものが、これが出されていますよね。これに伴って実際にこうやって具体的なことを進めて、まだ来年までありますけれども、やればやるほど当然財源的なものも伴うという気がするのですけれども、財政の関係はどうなっているのですか。

◎議長（武田悌一氏） 企画財政部長。

◎企画財政部長（三好智幸氏） まず、これ、北海道の事業を活用してまして、地域づくり総合交付金、御承知だと思うのですが、その財源を活用して事業を実施しております。5年間の事業ですから、1年約1,000万円ほど、中心市というか、事務を担当しています岩見沢市のほうに1,000万円が交付され、5年間では5,000万円ほどの事業を見込んでいるというような形になってございます。

◎議長（武田悌一氏） 谷津議員。

◎10番（谷津邦夫氏） そうしたら、ちょっともう一步踏み込みますが、実際に今、総務省が後押ししている定住自立圏構想にどうしても目を向けざるを得ない何か気がするわけですが、現在、実際に具体的に言うと、もう北空知が深川市が中心となって形成したり、中空知では滝川や砂川が中心となってもう既にこういう広域圏構想も形成しているわけですよ。あとは、南空知、私どもが、岩見沢市が中心となると思いますが、中心市の要件を満たしていないということで、今まで該当しないという状況です。そうかなという気がしていたら、昨年のは12月に報道された記事ですけども、岩見沢の市議会で松野市長は、2020年の国勢調査で広域行政に取り組む国の制度、定住自立圏の中心市の要件を満たした、このことを表明して、形成に意欲を示していると、そんな報道がされております。また、先般、空知総合振興局長の鈴木局長も広域連携が必要な課題の議論が前進するための役割を果たしますと、そんな報道もされております。こうした報道に対して市長のもし見解があれば聞きたいなというふうに思っていますが、いかがでしょうか。

◎議長（武田悌一氏） 市長。

◎市長（西城賢策氏） そもそも論、広域連携とか定住自立圏とかというのは、どういふふうにして機能していくのかなというのが我々にはあまり見えていないというのが実態だ

と思いますね。我々は、連携を一生懸命するというのは、基本的にはその以前に個々のまちづくりがありますから、その個々のまちづくりをしっかりと取り組んで、どんどん力のあるところに追いついていこうとするのが本来なのだろうなというふうに思っておりますので、一方で広域自治体とか、あるいは国は、特に広域自治体だと思いますけれども、やはり連携を口にして、連携させること自体が価値といいますか、存在意義といいますか、そういう動きをすることが多いと。必ずしもいつもそうだとは申し上げませんが、だから、そこのところにあまり巻き込まれ過ぎてもよくないし、一方で、連携すべきところは連携していくと、そういうことをしっかり一つ一つの問題を見極めながら取り組んでいかなければならないのだろうなというふうに思っております。

定住自立圏のことに関しては、制度上ようやく該当することになったということで、詳細、詳しくは私存じ上げませんが、所管のほうではそういうような認識で説明があったということでもあります。そのことはそのこととして、今後どういうふうにしていくかというのは、今後の議論だと思いますが、現実にどんなところが定住自立圏としてプラスになるのか、我がまちにとってどれだけプラスになるのか、まさに市益としてどうなのかというあたりがよく見えなければならぬだろうというふうに思っていますから、そこはしっかりと議論をしてきてくれというふうに言っているところでありますが、本当にその定住自立圏の範囲でいいのか、これだけ時代が進んできて、三笠は三笠でいろんなことを考えているわけです。そのように美唄は美唄、あるいは夕張は夕張でいろんなことを考えていらっしゃると思いますので、そういうものを総合した中で、本当に今の定住自立圏という南空知の枠が本当に適当なのか、もっと拡大したものにしていかなければならないのか、そういう発想も必要なのだろうなと思っております。

私は、これだけの時代になれば、やはり道央である札幌圏とのつながりをもっと強くしていくということをしっかり考えていかなければならないのだろうなと。私どもで考えている今のいろんなプロジェクトも含めて、札幌との連携をもっと深くすれば、もっと効果的なものが生まれてくるかもしれない。これはあくまでも、かもしれないという範囲ですが、そういう考え方をきっちり持って、まちづくりをしていかなければならないのかなと。さして具体的なものについて今申し上げるつもりは何もないし、具体的なものを私が持っているというわけでもありませんから、そういうことでありますけれども、とにかく連携、連携という言葉に何か我々、飛びつき過ぎるのではないかと。連携することが、同じ内容でもいい部分とそうではない部分というのは必ずあると思いますので、三笠市は三笠市として独自路線を歩みながら連携すべきところは連携していくと、そういうふうな考え方ときっちり持って、この問題についてはしっかりと取り組んでいきたいなというふうに考えているところであります。

◎議長（武田悌一氏） 谷津議員。

◎10番（谷津邦夫氏） 市長、札幌圏の話も出ましたので、私もちょっとそれに似通った部分があるのですけれども、当時議長も南空知のふる圏の中で以前からこの話題も出た

り入ったりしているのです。その中で岩見沢を先行して、これはどこだったかな、長沼だったかな、それから南幌を含めて、もう札幌圏の完全に一定の枠の中に入って議論しているのです。そういう中で、南空知の中で残念ながらほかの自治体は札幌圏とのそういう話があるようでないという中で、いろんな話題になりました。そのときも、やっぱり病院のことやら、自治体の地方公共交通のことなのです。でも、かといって全体が、やはり4市5町が同じことすることはなかなか難しいので、どうしても中心市の岩見沢市を中心として、岩見沢の周辺のこうやって三笠とのお互いにできないことを補うというか、そのことがやっぱり一つの、これ連携という言葉になってしまっているのですけれども、今、市長の言う、私どもだってインターチェンジがあったり、道東圏と結ぶすばらしい都市機能を果たす役割を持って、いろんなまちづくりをする、うちの目玉がたくさんありますよ。そういう中で、やっぱり札幌圏と私どものまちとの連携だって非常に大きいという気がするわけなのです。

そういう中で、これからいずれこの定住自立圏の形成の話が出てくると思うのですけれども、その辺の今後の見通しとしては、どういう流れになってくるのか、もし聞かせてもらえるのであればスケジュール的なもの、来年までこれありますけれども、その後はどんな見通しが立っているのですか。

◎議長（武田悌一氏） 企画財政部長。

◎企画財政部長（三好智幸氏） 定住自立圏のスケジュールという部分で、岩見沢市が中心市要件を満たしたということで、これ令和5年1月19日に第1回の企画の課長会議を、中心市要件を満たしたと、今それぐらいの段階で、スケジュール的なものもまだはっきり岩見沢市と、また、それから再三出ています4市5町、その辺の町村ともまだ詰まっていない状況ですので、またその辺はほかの市町村の状況も、タイミングもございますので、適切な時期に議員の皆様にはお伝えしていきたいと思っています。

◎議長（武田悌一氏） 谷津議員。

◎10番（谷津邦夫氏） ちょっとこの機会にですけれども、うちらは広域的に考えると水道事業はしていますよね。それで、消防行政のことも一時広まって、今どんな実態になっているか分かりませんが、ありましたよね。そして、これから医療やら公共交通やらいろんな意味で、そういう意味での広がりというものは必ずやぶつかるという気がするのです。

そんな中で、ぶつかってから考えるのか、今言う消防行政がどんなことになって進んでいるのか、必ず医療行政と整合性を持たなければならない分野だと思うのですけれども、その辺何か市長、見解ありますか。

◎議長（武田悌一氏） 市長。

◎市長（西城賢策氏） 今、議論されているのは、従来あった議論のいわゆる合併議論というのとは違って、個々の市町村が生きていくために独自色を出しながらどうやって地域を残していくかという、そういう議論だと思いますので、私は基本的にそういった考え方

の中で反対するという考え方はありません。ただ、その中で過去の、自治体が埋没してしまうようなものを考えるのだったら、それはもう本末転倒だというふうに思っていますので、もし例えば消防行政の中の一体化、それが効率性が上がってまちの方々が安心できるのであれば、それはそれでいいけれども、そこに不安ばかりが残るのであれば、それは何もあえて一緒になる必要性はない、そういうふうに考えていかなければならないのだろう。一方で、財源的な問題もありますから、何でもかんでも主張が通るというわけでもないのだろうと思いますので、その辺はよく見極めながら、だから、ふだん申し上げているように、財源の確保というのは極めて重要であって、まちとして財政をいかに維持していくか、どれだけ守っていくかというのが極めて重要なのだと。私の最大の業務は、やっぱり財政をしっかり守りながら、新しいまちづくりを進めることなのだというふうに思っているところであります。

今、申し上げている、いわゆる定住自立圏の問題とか、谷津議員がちょっとおっしゃった、あれはさっぱり連携中枢都市圏と言ったはずですが、そういうものについて今後どのように考えていくのか、まさに南空知は岩見沢市、長沼、南幌がその中にもう入っているわけですよ。なぜ、ほかは除かれたのか。いろいろ細かい条件があるのだろうと思いますが、そういうものも含めて、今回のそういう議論も含めたら、そこに可能であれば三笠市だって入っていくことができないのかなというようなことでの議論は内部でもしているところであります。いずれにしても、まちを残すために、しっかりと個々の個性を生かしながらやっていくという発想であれば、私はこのことについて積極的に議論していくことについてはやぶさかではないというふうに思っております。

ただ、何度も申し上げることですけれども、連携、連携と、ともかく道を中心に言います。もう本当に連携すること自体が、させること自体がと言ったほうがいいのかもかもしれませんが、道の唯一の業務とは言いませんが、そういう方向でどんどん私どもに投げかけてくる部分というのはありますから、これはしっかり我々も注意しながら、しかし本当にいいものについては取り組んでいくと、そういう意識でいなければならないのだろうなというふうについていつも企画のスタッフには申し上げているところであります。

以上です。

◎議長（武田悌一氏） いいですか。

◎10番（谷津邦夫氏） 終わります。

◎議長（武田悌一氏） 以上で、谷津議員の質問を終わります。

これをもちまして、市政執行方針及び教育行政執行方針並びに議案第32号及び議案第33号について、通告のあった質問は全て終了しました。

ただいま議題となっております議案第32号及び議案第33号については、総合常任委員会に付託いたします。

◎日程第2 議案第28号から議案第31号まで及び議案第3

4号について

◎議長（武田悌一氏） 日程の2 議案第28号から議案第31号まで及び議案第34号についてを一括議題とします。

前回の議事を継続し、直ちに質疑を行います。

（「質疑なし」の声あり）

◎議長（武田悌一氏） 質疑ないようですから、質疑を終了します。

ただいま議題となっております議案第28号から議案第31号まで及び議案第34号については、総合常任委員会に付託いたします。

◎休会の議決

◎議長（武田悌一氏） 休会についてお諮りします。

議事の都合により、明日6月23日から6月26日までの4日間、休会にしたいと思います。御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

◎議長（武田悌一氏） 御異議なしと認めます。

6月23日から6月26日までの4日間、休会することに決定しました。

以上をもちまして、本日の日程は全て終了しました。

◎散会宣告

◎議長（武田悌一氏）

これをもちまして、散会します。

御苦労さまでした。

散会 午前11時03分

地方自治法第 1 2 3 条第 2 項の規定により署名する。

令和 年 月 日

議 長

署名議員

署名議員